

冷夏、長雨、度重なる台風、そして地震津

平成6年新年懇親会

!!新春を祝い!!

尾張犬山城下にて開催

波と昨年の日本列島は天災にゆり動かされ出の口の見えない長期不況異常気象と続く厳しい年明けを迎えた平成6年1月16日(日)尾張連合の担当で、国宝犬山城を望む木曽川畔迎帆楼に於て県内総数160名の御参加を得て盛大に開催された。

定刻12時、尾張板金連合副会長平野勝規氏の司会にて始まり、尾張板金連合相談役滝伸次氏の開会の辞に続き細野連合会長より厳しい時代の折、新年懇親会に多数の参加を頂きお礼の言葉とこの不況を乗り切る為にも我々組合員が一致団結してお互の和を広げようではないかと歓迎の挨拶を述べた。

愛知県板平野理事長は挨拶のなかで、厳し

い時代こそ技術、技能を習得することが大切である。大企業、小企業を問わず倒産、内容不況で希望退職者を募ったり、整理を進めて苦しい経営をのりきるのが現状であり、我々の板金業も魅力ある職場にして一人でも多く後継者を育成するのが大事であるとのべられた。

来賓である愛知県商工部技監山田行政氏、愛知県建築部次長浅谷守氏、衆議員片岡武司秘書藤田氏とそれぞれの方々より厳しい時代こそどう対処すればよいかと丁寧なる挨拶を頂きました。

来賓の順次紹介、祝電披露と続き、亜鉛鉄板問屋会長横山氏の乾杯の音頭により懇親会に移った。

久し振りに合う仲間と仕事の話、温泉めぐり、釣りの話等に花が咲き酒も程よく廻り日々の仕事から解放され話に熱中するひと、



愛知県板金工業組合

名古屋昭和区
北山町3-8-6
電話 732-1226
発行 広報委員会



工事業と日頃繋がり深い関係業界者の集いだけに気負いや堅さもなくて、あちこちで「今年もよろしく」と新年の挨拶が交わされ和やかな雰囲気会場を包み込んでいた。

問屋会は横山会長・神谷副会長・伊藤財務担当・大熊渉外委員長

浮かれパブルの傷のあと人目忍んで裏金渡しゃ怖い地検が邪魔をする」と後半はメロデーをつけ



カラオケで自慢のノドを披露するひと、それぞれに時間の過ぎ去るのは早く中締めとして日本鉄板名古屋支店長川口氏の万歳三唱を行った。

和やかに宴がすすむなか、尾張連合会柴田氏の閉会の辞にて次の再会を楽しみにしながら解散した。

窓越しに見える犬山城を拝み温泉につかりながらあすからの仕事に頑張ろうと誓い友と別れた。

西春 井藤

★愛知県亜鉛鉄板問屋会 新年賀詞交歓会開催

新年恒例の、愛知県亜鉛鉄板問屋会新年賀詞交歓会が一月十四日、ホテルキャッスルプラザ・孔雀の間にて、正会員、賛助会員、来賓合わせて八四名が出席して盛大に開催された。

愛知県板からは平野理事長、村上・斎藤両副理事長、早川事務の四名が来賓として出席した。メーカー・問屋・工事業と日頃繋がり深い関係業界者の集いだけに気負いや堅さもなくて、あちこちで「今年もよろしく」と新年の挨拶が交わされ和やかな雰囲気会場を包み込んでいた。

問屋会は横山会長・神谷副会長・伊藤財務担当・大熊渉外委員長

た挨拶に拍手喝采のお受け。つづいて今の社会情勢を乗り切るには物事のやり方、考え方を改め、次の時代に向けた活動を、関係業界一体となって考えようという堅い結束を呼び掛けた。そして最後は、またまた「くもりガラスを手でふいて あなたあしたが見えますか・・・」と「さなかの宿」の一節でしめくくる。これまで不況・不景気の挨拶を耳にタコが当たるほど聞かされてウンザリしていたが、横山会長は実にユーモラスに的を射た挨拶であった。会は立食で進行され模擬店の料理に舌鼓を打ち、シャンソン歌手の歌声に耳を傾け、語り合いビンゴゲームに全員が一喜一憂、当たりの商品「宝クジ」に夢を乗せた素晴らしい賀詞交歓会は盛会のうちに閉幕となった。

西尾に恐竜の卵出現

◆カーニバルCドーム◆

昨年从今年にかけて映画界は、恐竜ブームでにぎわった。

アメリカ映画では、ジュラシックパークに人気があり、日本映画ではアニメ映画で『C.O.O. 遠い海からきたク』に人気があり、私くらいの年齢層では忘れられない映画にゴジラがある。

いま映画館では、ゴジラVSメカゴジラという映画が上映されている。なぜかと言えば、殻がステンレスで出来ているからだ。生みの親は丸万観光グループという会社でこの卵の名前は「カーニバルCドーム」とい



い卵の中は、総合ゲームセンター&カラオケルームになっている。この建物は名古屋の設計事務所が図面を書き、西尾市の山旺建設(株)が施工した。卵の殻は愛板の組合員が協力して施工した。最初の積算は設計事務所側の工務店と施主側の工務店の二社が見積りをした。

施主側の工務店(山旺建設(株))から見積りがあったのは、西尾支部の(株)杉浦板金工業所(杉浦武社長)設計事務所側の工務店(加納工務店(株))から昭和支部の林板金(株)(林弘社長)が見積りを提出した。建築入札の結果、施主側の工務店に落札した。

り知人である、岡崎の(株)共立(石原鉄司社長)が、現場施工、管理は甲部板金と四社がそれぞれ受け持ち協力体制が出来着手した。

壁・屋根は一字葺きで葺き板サイズを約2500×1000とし57段葺き上げ、その上は縦平葺きとした。

下地材は25TのTSCシートを貼る、このシートはプチルゴムシートで剥離材が入っていて剥がしながら貼ればタッカーで止めなくてすむ。

屋根の㎡数は2500㎡使用材料は2Dステンレス0.4tを14t使用、吊子の数は4万個191kgのステンレスが必要だった。

出ずらは加工が80人工・一字葺きが180人工、縦平葺きが60人工下地ボード張が170人工で約一カ月の工事であった。

葺き方は建物で卵形をしているために煉瓦張では縦ハゼを通すのに難しく揃いにくいいため、1m幅の1/4をずらして張り

上げていく。しかし実際は卵形が下1/5が地中に埋まったような形で建っている。このため張はじめるは上向きに張りだして、上に張りだるほど円周が大きくなり卵の一番長円から上はまた円周が小さくなる。このようなことから材料の板断ちも円周にあわせて長くしたり短くしていかねばならない。

また、工期の関係もあり下から張りあげて一番上まで張り上げるには工期が足りない。このため頂部から6mの部分の縦平葺きは一字葺きが葺きあがるのを待っていたらとも工期に間に合わないで、取り合い部分

愛板名古屋連合会では第三回安全祈願祭を1月24日熱田神宮で行った。

昨年の愛板組合員では、死亡事故こそなかったものの、作業中の事故が18件も起きている。これは組合事務局に届けがあったものだけであり、届けられていない事故も相当数あるのではないかと、中でも、知多支部の55才の組合員は脚立を使って、トラックに積み荷中誤って足を滑らせ脚立から落ちて2カ月の重傷。また西尾支部の36才の組合員も立てかけてあるはしごに登り作業中、梯子が滑り墜落2カ月の重傷である。痛ましい事故で

の殻が平成5年11月下旬に西尾市上町交差点角に誕生した。皆さんも西尾方面にいかれたら是非建物を見て、参考にしてください。

この記事は林社長に取材して驚見 収がまとめました。

★愛板名古屋連合会 安全祈願祭



ある。他にも緑支部員の55才1.8mの脚立から足を滑らせ墜落90日の重傷、東北支部員45才梯子から転落30日の重傷と一家の大黒柱が1

カ月も2カ月も仕事を休まなければならない。家族の悲しみを思うと残念でならない。

高さにしてみれば6尺そこそこの高さから落ちて2カ月とか1カ月の重傷である。ちよつとした不注意が思わぬ事故となっている。

昨年の事故報告はこれだけだが、それ以前に事故に合いまでも治療中という組合員もいる。高いところから墜落という事故はほとんどなく、事故の大半がビテイ足場一段の高さだと言われている。恐い高さでないのが気のゆるみもあり大怪我につながるのではな

いか。

県板名古屋ブロック十支部では支部長役員19名が熱田神宮に参集玉垣にて名古屋ブロック組合員ならびに県板組合員の安全を祈願した。

祈願祭のあと神楽殿でお神楽の奉納を行い今年一年、組合員が事故など災難に遭わないよう玉串を捧げて安全祈願を行った。

組合員皆さんも新年を迎えて商売繁盛・健康でありますようにと誓われたことと思えます。

日頃の慣れた仕事にも十分注意して楽しい事業所でありますように。

驚見

豊田支部

新春親睦旅行



県板豊田支部(甲部安男組合長)は平成6年1月10日・11日の両日、一泊二日にて恒例の親睦旅行を行いました。行き先は伊豆の稲取温泉でした。参加者は32名ありました。1月10日午前8時に豊田を出発、

東名高速から津のインターへと向かいました。車中でのアルコールの売れ行きには目を見張るものがありました。沼津のインターを出てから昼食を取り、その後三島大社に初詣に向かいました。稲取での泊まりは銀水荘という有名なホテルで、確かに設備もサービスも満足のいくものでした。二日目はループ橋、天城トンネル、浄蓮の滝と定番のコースを尋ね最後に焼津魚センターに買い物をして帰路につきました。

豊田 松井

第15回県板青年部

技能競技会開催!!

第16回全板連青年部
競技大会代表決まる

平成6年1月9日(日)一宮高等技術専門校において開催され、出場選手は各支部より選ばれた14名で、今回の課題である『花器』に挑みました。

開会宣言の後、神谷県青年部長の挨拶に続き、来賓である県板平野理事長より激励の言葉が有り、注意事項の説明、道具の検査の後、競技開始となりました。今回は製図作業を省略した為、競技標準時間を3時間、打ち切り時間を3時間30分として行われました。選手の皆さんは真剣な作業態度で課題に取り組まれました。標準時間内に12名が提出、打ち切り時間までに全員が提出することができました。閉会式終了後、すぐ作品の

豊田 松井



いよいよスタート 労働時間短縮!!

▼企業努力で取り組みを!!

政治改革の混沌としている中、景気回復が望めぬ昨今、私達の周囲は非常に厳しいものがあり、採算ベースを下廻る様な工事の獲得、業者間の争いをなくし、お互いの信頼を得られ

る為、業界は何らかの対策を必要とするのは、一日も早く政治改革を納め、経済の復興に力を注いで欲しい。さて、既に御承知の如く、一昨年辺りから時短の話題が浮上し、

私達の脳裏に焼きついている事と思う。官庁経済界、大手商社などはいち早く取入れ定着し、順調な歩みを進めているが、我々業界一部業種にあっては、理解出来ぬ諸問題が混在している事は周知の通りではあるが、しかし企業努力により平成7

年4月1日からは全面的に取組まなければならない事となろう。業界としてそれぞれ指導性を発起し、浸透させ今後の最重要課題

として成果を期待する。これらを踏まえて今年4月1日より施行予定となっている改正労働法。改正により法定労働時間が週40時間となるが、建設業では300人以下の事業場は週44時間(平成9年3月31日まで)猶予措置を設けるとしている。

但し10人未満の事業場については、平成7年3月31日まで週46時間とされている。変形労働時間制の場合、100

ては一定の期間を平均した週の労働時間は42時間以内(法では40時間以内)等の猶予措置が考慮されている。又時間外・休日労働に対する割増賃金率については、時間外は現行通り25%以上、休日労働は35%以上となっている。これらについては猶予措置の範囲にとどまらず、出来得る限り時短の促進を図る事が望まれる。早急な対策を。

沼澤

◆東三支部

新春の集い

穏やかな新春を迎えた1月5日、蒲郡ホテル竹島に於て行なわれました。

副組合長の額額さんの司会で、午後六時より始まりました。

来賓に県板の早川専務理事、商社の方をお招きし組合員50余名が参加して開催されました。今年は当組合に於て記念すべき行事が行なわれる予定ですと組合長の挨拶でした。

その事について次の私共の組合は明治の

務を果たした、先人の

初期、ドイツから工業組合法が輸入され、いち早く豊橋鋼鉄工業組合を組織して「親睦ヲ圓リ、業務ノ弊害ヲ矯正シ、並ニ、進歩的発展ヲ期セラレルヲ目的トス」と員証を掲げて今年で九十年に成ります。大正、昭和の初期の不景気を大勢の組合員の力を結集し、新たに一歩二歩を踏みだそうと、昭和十四年に東三板金工業組合へと発展しました。

人たちに感銘し敬意を表し、長い組合の良さと自営の良さを改めて確認すべく、五十五周年記念式典を行ないます。

この一歩が新たな時代への幕開けとなれば幸いです。

記念式典は、三月二十日総会終了後行なわれる予定です。

今は式典を成功させるにあたり、役員一同一生懸命頑張っている次第ですとのべられました。

どうか組合員もよろしく、宴もたけなわのうち九時過ぎに終了しました。

東三 協坂



編集後記

今年の干支は「甲戌」(きのえいぬ)つまり十干の第一「甲」と十二支の「戌」がめぐり合わせた年の干支をそのように言う。

今年愚生は昭和一ケタ生れの年男である。

そして、数え六十一才の還暦を迎える事となった。さて、その還暦とは「広辞林」によれば「陰暦で干支が六十年で元にかえる事を還暦といふ。また数え六十一才の呼称で、ほかに、ほんけがえりともいう」とある。

また、昔六十一才は厄年と言われて来た。四十才の本厄ほどではないにしても、人生の節目でもあり、心身共に要注意の戒めなのだろう。地方の町村では「還暦祝い」と称して、厄年の災難を大勢の人に少しずつ貰ってもらう意味と長寿を祈念する内祝の習慣が続いている。

愚生の地区では元旦に同年者が集まり地元の神社で厄除け祈願をし一月中に滋賀県の多賀大社に長命と厄除けのご祈禱を受けに出掛ける。そして春先頃までに、親戚・知人に集まって貰って内祝の席を設けたり、送り膳をする風習がある。

ところで愚生六十一の厄年とか還暦と言われるのにすく抵抗を感じる。現在の年齢の呼び方ならば、あと僅かではあるが五十代なのだ。「往生際が悪い」と家内や長女にからかわれるが、五十代と六十代では感覚的にえらく違う。

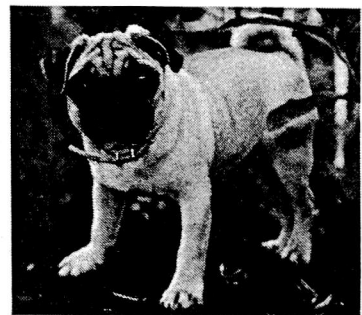
これまで三十代、四十代、五十代と人間をやって来た訳だが、四十代から五十代になるときも余りいい気分では無かった。しかし今年、やがて五十路から六十路に入る気持ちは、我が人生最終コースへ来たかの感がすく強い。

「年齢は大きくなったが、気持ちは若い」とは老齡期を迎えた人が必ず言う強がりの言葉だが、愚生だって若い気持ちとチャレンジ精神は他人には絶対に負けない自信がある。「探検隊長の今だ衰え」である。

人生八十年として後二十年、まだまだやりたい事は山ほどある。二十年位では満足に消化しきれない。もし自分が希望するだけ、心身共に健康体で生き続ける事が許されるなら九十才、百才と生き続けて、二十一世紀の世界の進化を見続けたいと、大きな夢があるのだが、

この一・二年同年輩の中にも会社を定年退職する者が増えてきた。再就職する者、趣味と実益を兼ねた野菜や果物作りに精出して「晴耕雨読」としゃれこむ者などそれぞれだが、目的をもっている人は生き生きしている。反面、定年退職してヤレヤレと思った人ほど老け込むのが早いようだ。

「自営業は定年がなくいい」と退職した人からよく言われる。仕事が無くなって体験したホンネなのだろう。こちらから見れば、年金で安定しているし、ヒマはあるしと思うのだが、健康体で何もする事が無いのは苦痛なのかも知れない。でも



毎日忙しい思いをしている身には羨ましい一面である。

体の自由がきけば好きな事も出来る。車で日本中を回りたい所がいっぱいある、など夢は無限に広がるのだが、しかし、忙しいのは楽しいものだ。受注した工事が一つまた一つと完成してお客様に喜ばれるのは、物を作り出す仕事をする者にとって何物にも替えがたい喜びである。「忙中閑あり」とばかり、遊びも面白いスリルも味わる。健康を保ち、やりたい事に意欲を倍増させる事が出来るのは最高の幸せに恵まれているからかも知れない。

一月二十七日(木)晴
二八〇号編集会議
委員 六名 出席
午後六時終了 (S)